

東田小学校学校運営協議会令和5年（2023年）度
2024年2月15日（木） 会長挨拶 23-RO6

声で発せられる言葉は文字によって記録される。世界で使われている言葉＝言語はその言葉に特有の文字で表記されることでその言葉は残ることが出来る。

しかし文字表現を有しない言語の方が多いためである。そして多くの言葉が歴史的に消滅してしまった。我々が使う日本語はひらがな、カタカナ、漢字という3種類の文字と外国語表示のアルファベット、アラビア数字を交えて表記する。世界の言語でこれほどの複雑な組み合わせの言語は珍しい。奈良時代8世紀には古事記、万葉集、正倉院古文書ですでに日本語文字が記されている。欧州語の英語、仏語、独語などよりも古い。

日本人は生まれると同時に母親によって乳児の時から直接、初めて言葉が交わされ、日本語の音に慣らされる。それで母語 (Mother Language) と言われる。

そして幼稚園、小学校に通うようになって正しい日本語を覚える。学校で教科書や副読本、絵本に接する。学校の図書館が児童に自宅にはない本を提供する。その後、中学校、高等学校、大学と高度な日本語、あるいは外国語の教育を受けることになる。社会人になってからも言葉の学習は続くのである。人は一生日本語、外国語の文字に接することになる。

幼児の時から自然に体で学んできた日本語と成人になってから学ぶ外国語とは基本的に学び方が全く異なる。前者は母語としての日本語である。言葉の表現は文字と発音によってなされるが、基本的には書物、新聞、ラジオ、テレビ、そして今ではスマートフォン、パソコンなど最新のICT情報通信技術手段が加わっている。アナログの手段の書物に加えてデジタルの器具が追加されたことが21世紀の子供たちに与えられた特徴である。

書物；本とは自宅、個人の書棚、書斎、学校の図書館、公共の図書館、町の本屋、古本屋で人が接する。この本と接する場所、出会いの場としての図書館は人間の教育において極めて重要な役割を果たしている。

個人の書棚は本人の好みによって選別された書物が集積されるが、図書館の場合は本が図書館司書によって選別購入され、時代の経過とともに体系的に所蔵されており、いつでも我々は新たにこれらの本と接することが出来る。新たな本との出会いの場である。

新刊本屋は最新の出版物、古本屋は過去の本の集積という役割分担となっているが、残念ながら本屋が町から全国的に減少している今こそ学校と公共の図書館はすべての人にとって極めて有意義で便利な本との出会いの場でもある。

初等教育における日本語教育の基盤構築の小学校の役割の重要性を再認識すべきである。初等教育期に読まれるべき適正な書物に接するようにするには学校の図書館は基幹的な役割を有している。デジタル時代において今こそアナログの書物を基盤とした教育がなされるべきと思うばかりである。小学校の教師の日本語教育を行っていることの任務を評価したい。

以上